

景観協議申出までの事業者との調整事項

当地区は歴史的界隈形成エリアには属していないものの、周辺に歴史的建造物が立地しており、歩行者から港や氷川丸を臨むことができるなど、ウォーターフロントとして特徴のある場所です。このような立地条件より、人々の滞留・回遊と賑わいの創出を行うとともに、歴史的な街並みの連続性を創出するような形態意匠が望ましいと考えます。なお、横浜市の考える歴史的建造物との調和手法として、「同調的な調和」と「対比的な調和」の2つの考え方があります。当計画では、歴史的建造物であるホテルニューグランドとは近接しているものの隣接はしていないため、歴史的建造物を際立たせるというデザインの考え方ではなく、「周辺の街並み景観と調和」したデザインとすることにより、街並みの連続性の創出を図っています。

そこで、特にデザインの工夫が必要と考えられる以下の2点について重点的に協議してまいりましたので、市の考え方を示します。

1：低層部のデザインについて

「周辺の街並み景観との調和」により、歴史的な街並みの連続性の創出を図りながらも、歴史的建造物（ホテルニューグランド）と同調しすぎないようなファサードをどのように構成していくかを論点に協議してまいりました。

そこで、当計画は現代的な建物の中に、周辺に立地する古典建物のモチーフを取り入れた新規性と歴史性の融合を試みたデザインとなりました。なお、古典建物にはない大きな開口部を設けるなど、歴史的建造物と混同しないような工夫をしています。

また、低層部のレベルを2段階設けることで、港からの眺望景観および周辺建物との調和を図っており、連続性のある街並みを形成しています。

さらに、開口部から内部の賑わいのにじみ出しを演出し、低層部屋上には歩行者から視認できる緑化を設けることで、通りに賑わいと潤いを創出できていると考えます。

2：頂部のデザインについて

屋上の設備機器や塔屋の目隠しのためにパネルを設けていますが、緊急救助用スペースへの侵入区域（ヘリポート）を確保するため台形型のデザインになっています。なお、眺望景観に配慮するため、建築物と一体的に見えるような大規模な目隠しパネルとし、ガラスを使用することにより軽快で空に溶け込むような景観演出ができていると考えます。